

## 『ムラサキシジミ』

桑原 紀子

雑木林の葉っぱも散って、すっかり冬の林です。あんなに沢山いた生き物たちもどこかに姿を潜めて、影も形もありません。

でもお天気がよくて、ぽかぽかするお昼頃、林の道を歩いていると、木々の間をチラリと小さな影がよぎりました。キラッと青光りがしたので、ムラサキシジミと分かりました。

蝶のままで越冬するのですが、暖地性の蝶なので、日光が大好き。日光浴のために翅を広げると、小さくても青紫の宝石のような輝きです。翅をたたむと、辺りに溶け込む灰褐色で、すぐ見失ってしまいます。



幼虫はカシやシイの常緑樹の若葉を食べて育ち、卵もそれらの新芽に生みつけます。以前アラカシの新芽に、小さな白い卵を見つけたことがありました。

12月19日の輪飾り作りの日、西緑地の林の中でも出会いました。霜の降りた寒い朝でしたが、日中は快晴でした。いっしょにいた三人が「アッ! 蝶・・・」と目で追いましたが、すばやく飛び去りました。

越冬する蝶はほかにも数種類いるのですが、ムラサキシジミは深い眠りではなく、ちょっと暖かいと敏感に目を覚ます、活発なタイプなのかもしれません。

熟睡型、敏感型、色々な蝶が冬の林に眠っているでしょう。かすかな寝息が聞こえてくるような気がします。